

理研の3年間

私は1993年の4月から1996年3月までの3年間、理研に所属しました。その間、我々は埼玉県朝霞市に住みました。そして、もう一つ重要なことが起こりました。それは、次男の条蒔（ジョウジ）が1993年6月6日に生まれたことです。条蒔の名前は、「条」の字が、「物事の理」を表わすことから、「物事の理の種を蒔く人」になって欲しいという希望を託して名付けました。条蒔は、維作と比べると、多少小粒な男の子ですが、実に活発な運動量の多い子供です。彼もすくすく教科書どおり成長しました。



ただ、維作と条蒔ともに我々夫婦が気がつけたことは、頭の形をきれいな形の後頭部に保つということでした。というのは、我々が知っていたところでは、日本人の頭蓋骨は西洋人や諸外国の人々のそれと比べて弱く、乳児の頭が変形しやすく、いわゆる「絶壁の頭」や歪んだ「ポテトヘッド（ジャガイモ頭）」になりやすいからでした。そのため、出産後すぐの新生児室で寝ている段階から、病院の看護婦の行うこと（ずっと仰向けで寝かせることや同じ方向で寝かせること）を信用せずにわが子の頭を変形から守るため、うつぶせ寝にしたり、横向きにしたり、10分20分おきに体位を変えて、カコが十分に注意しました。その結果、わが家の子供たちの頭は、完璧な形（卵型）になりました。頭は大きいけれど、顔は小さいという現代的な整った顔形になりました。日本人の頭が歪んだり、絶壁の頭になったり、平べったい顔や横に広い顔になったりするの、けっして遺伝ではありません。出産直後の新生児の頭が固くなるまでの短い間の出来事に対する、医療関係者や親の無理解が原因なのです。親が努力すれば、我々のようにそれを避けることができます。一般に出回っている本には頭の形は大人になれば直ると書いてありますが、それは事実ではありません。頭の形は一度固まったら一生変化しません。子供のためと思って、ぜひ注意してください。

私は、理研の結晶学研究室で基礎科学特別研究員として研究しました。ここは、何の義務もなく、研究だけに没頭できる場所でした。確かに、この職は3年という任期付のため3年後の職が未確定という不安はありましたが、実に自由にやれるほか、月50万円の良い給料と年138万円の自由に使える研究費が魅力でした。初年度に理事長ファンドという150万円の研究推進費がさらに取得でき、コンピューターやソフトや書籍を揃える必要のあった私にとってラッキーでした。このときの理事長小田稔博士には、心から感謝したいと思います。彼なくして私が理研に行くことも研究推進費を得ることもできなかったらうからです。

結局、この3年間に私は15ほどの論文を出版できました。これらは、私がかつてユタのシュガーハウスの芝生の上で初めてカコに話した私のヴィジョンの実現でした。この間に私はそのほとんどすべて

を実現できました。さらには、その後私が気付いた、DNAやタンパク質などへの私の研究の応用など、さまざまな新発見がありました。たいへんラッキーでした。理研の基礎科学特別研究員制度は、ノーベル生理医学賞をとった、利根川進教授（MIT）が理研を訪れたことを機会にできました。その意味で、彼にも感謝せざるを得ません。このように理研の3年間は私にとって、初めて私が研究者としての待遇を得た、最も充実した研究者としての時期でした。



残念なことに、最後の1年をめどに、その後の研究職を国内外のさまざまなところに探しましたが、得られなかったことでした。さらに、私が理研の基礎科学特別研究員の論文出版新記録を樹立したにもかかわらず、理研のだれも私を理研のスタッフとして迎え入れてくれる人がいなかったことでした。結局、我々は1996年4月12日理研を後に、わが妻カコの実家のある徳島阿南へ一度行ってみることにしました。というのも、わが家の子供たち2人が生まれてからまだ一度もカコの実家に戻ったことがなかったからでした。これが我々が今ここ阿南市に住む理由です。

[もっと前](#) [もっと後](#)

[ホームページ](#) [和基](#) [和子](#) [維作](#) [条蒔](#) [家族](#) [Donation](#)

「井口和基博士と家族のホームページ」
〒774-0003 徳島県阿南市畷町新はり70-3
井口和基 (C)2004